

会議等結果報告書

会議区分	会 議 ・ 打合せ ・ 協 議	文書番号	338
		決裁期日	平成28年2月29日
名 称	第6回上富良野町協働のまちづくり推進委員会		
日 時	平成28年2月26日（金） 午後6時30分～午後7時20分		
場 所	セントラルプラザ1階 会議室		
出席者	協働のまちづくり推進委員15人（別紙名簿のとおり） 事務局：町民生活課 鈴木課長、自治推進班 谷口主幹、田中主事 説明員：総務課企画財政班 長谷川主査 合計19名		

【司会：事務局 町民生活課長】

定刻の午後6時30分に開会を告げ、当日の日程を説明。

◎ 会長あいさつ

持安会長： 寒い時期、6回目の会議への出席にお礼申し上げます。今回はジオパークをテーマにお話を聞かせていただき色々と学んでいきたいので、皆さんからのご意見をお願いしたい。

【進行：持安会長】

議 題

1 協働に関する事業への評価助言 テーマ：「ジオパーク」について

上富良野町と美瑛町で十勝岳山麓ジオパーク推進協議会を立ち上げ、日本ジオパークの認定に向けて取り組みを進めている事業について、担当課から説明を受けて意見交換を実施。

総務課企画財政班の長谷川主査から、出前講座「ジオパークとは 十勝岳山麓ジオパークの認定に向けて」のスライド資料を用いて説明。（説明時間30分）

【質疑応答・意見交換】

青野委員： 昨年1週間ほど鹿児島市で開催されたジオパークの全国大会に参加させていただきました。ジオパークは特別なことを行うことではないが、認定に向けては真剣に取り組まなくてはならないと感じた。日頃から行われている山岳会の活動に少し知識を加えた案内を行ったり、豚の飼育に地元のものを取り入れたジオ豚、大地と水を生かしたジオ米、地元食材によるジオ菓子なども考えられる。いままでやってきたことが十勝岳の大地と繋がっていることを改めて伝えていくことが大切と感じている。

将来的に地元を離れてしまう子どもも多く、子どもたちにもっと十勝岳のことを伝えられればと思う。学校の行事に登山が無くなり、山に触れる機会が少なく、山に関心を持ってなくなっている。仕事柄、十勝岳に関わる立場であり、子どもたちが地元の山について語

れるよう活動が出来ればと思う。

持安会長： ジオサイトの選定は大変だと思うが、それらが連携していくことは面白いし大切だと思う。美瑛町との連携はいかがか。

青野委員： 町それぞれに想いがあると感じる。先の全国大会への参加においては、上富良野町は民間主体であり美瑛町は行政含めた参加であった。上富良野は町民から盛り上げていければと良いなと思う。

企画財政班担当： 上富良野町は地元の活動があって進めやすい環境にあると思う。郷土をさぐる会などの歴史に関する組織などもあり力強さを感じており生かしていければと思う。

菊池委員： 大雪山エコネットワーク（16市町村）の会合に参加させていただいた中、上富良野が率先してやる必要があると思う。ジオパークの全体的な協議会は出来たが、実行する組織が必要であり核になる組織がなくては動いていかないのではないかと感じている。

森本委員： 文化連盟でもジオパークの説明を聴かせていただいた。今日の説明は資料もわかりやすく良かったと思う。ジオパークそのものを知らない人は多いと思うので、浸透させていくことが必要と思う。

三島委員： 様々な団体があるので、それぞれが連携した活動ができればと思う。ジオパークの認定には町民の熱意が大切と聞いているので活動が活性化されればと思う。私の老人会でもジオパークを学習するよう計画している。

持安会長： 本日の資料を持ち帰りいただき、団体内での学習などに活用をお願いしたい。両町による協議会ができ、ジオパークをまちづくりとして進めていくうえで、各課横断的に職員が知恵を出し合っただければと思う。また、町内には様々な協議会があるので、それらも連携出来るような体制が作ればより良いと思う。

2 その他

- ・事務局より配布資料について説明。（委員会の取組経過及び次年度の組織設置について）
- ・本日が本委員会最後の会議となり、集合写真を撮影し午後7時20分終了。

【会議録は決裁終了後、行政ホームページ、町政情報提供コーナーに公開】